

鳥取の魅力再発見

修学旅行で県内回る

最高の思い出



北栄町の青山剛唱ふるさと館の前で盛り上がる6年生

西郷小学校と合同で6年生は2022年10月25、26日、修学旅行を行った。修学旅行は、6年生が小学校生活での楽しい思い出を作るために毎年行っている。この3年間は、新型コロナウイルスの影響もあり、鳥取県内を回る旅行となっていた。

1日目の最後は、全員が楽しみにしていた境港市の水木しげるロードだ。みんなが楽しそうに水木しげるロードを巡りながら、クーポン券を使って土産を買っていた。中には、他の小学校の人と仲良くなっている話も聞かれた。

帰りのバスの中で「もう一日修学旅行を延長しましょう」と言う人もいた。

新型コロナウイルスの影響で、6年生にとって初めての宿泊学習となった。待ちに待った修学旅行はずっと楽しく、あっという間に終わったように感じた。鳥取県を改めて体験することができた。それは、小学校生活の最高の思い出となった。6年生全員が「また修学旅行に行きたい」と話している。

(6年・光浪颯大、西垣玲音、田淵琴美)

散岐小新聞

学校概要



【学校名】鳥取市立散岐小学校
 【所在地】鳥取市河原町佐貫7番地5
 【校長名】浦田文久
 【児童数】60人
 【校訓】友愛
 【教育目標】散岐を愛し、心豊かにたくましく、他と共に生きる子ども育成

【沿革】(主なもの)

- 1873(明治6)年3月12日 佐貫尋常小学校として佐貫村浄土寺本堂に開設
- 4月22日 宇戸小学校を水根に開設
- 90(明治23)年 佐貫小学校校舎を新築
- 1908(明治41)年4月20日 佐貫村宇戸村組合佐貫尋常高等小学校とす(尋常科6年、高等科2年)、宇戸小学校、西山小学校を4年までとし、5年以上を本校に編入。当日を創立記念日と定める
- 23(大正12)年9月26日 校舎新築落成
- 55(昭和30)年 町村合併により河原町立散岐小学校と改称し、釜口小学校、宇戸分校を統合。校舎の改築始まる
- 84(昭和59)年3月17日 日本水泳連盟より水泳優秀表彰記念式挙行
- 93(平成5)年1月31日 新体育館完成
- 2000(平成12)年8月1日 校庭整備工事完成
- 04(平成16)年11月1日 市町村合併により鳥取市立散岐小学校となる
- 14、15(平成26、27)年 未来のとっとり教育創造事業、コミュニティースクール指定

5、6年生が作った新聞です

6年生の思いをぶつけた運動会



6年生が感謝の気持ちを伝えた運動会

散岐小学校運動会が2022年9月11日、開催された。全校児童が心を一つにして、最後まで全力で頑張る姿があった。

最初の種目の100m短走で、子どもたちは学年ごとに一生懸命走った。高学年の親の姿に涙を流す保護者も多かった。

当日は6年生からのサプライズ演出があった。校訓である「友愛」の字が大きく掲げられ、その前に整列した6年生が全校児童と保護者に向けて、思いを伝えた。卒業を前に、下学年にバトンをつなぎ、家族に感謝を伝えたのだ。その姿に涙を流す保護者も多かった。

新型コロナウイルスの影響で規模が小さくなった運動会だったが、力を合わせて頑張ることができ、運動会は大成功に終わった。

(6年・櫻田紗彩、前田夏輝、森田紗羽)

バトンつなぎ感謝

子競技や、各学年の個人競技などで得点を競い合った。新型コロナウイルスの影響でデントの中で競い合った応援合戦は、黄、緑、青、赤の4組がそれぞれ楽器を使って音楽を響かせた。青組のリーダーの西田蒼太さんは「みんなが一つになつて気持ちを伝えることができた」と話している。

当日は6年生からのサプライズ演出があった。校訓である「友愛」の字が大きく掲げられ、その前に整列した6年生が全校児童と保護者に向けて、思いを伝えた。卒業を前に、下学年にバトンをつなぎ、家族に感謝を伝えたのだ。その姿に涙を流す保護者も多かった。

新型コロナウイルスの影響で規模が小さくなった運動会だったが、力を合わせて頑張ることができ、運動会は大成功に終わった。

(6年・櫻田紗彩、前田夏輝、森田紗羽)

楽しさ満喫



汗を流した スキー教室

若桜町の氷ノ山で、5年生が、スキー教室を経験した。この行事はスキーの基礎技術を身に付けるとともに、スキーの楽しさ味わい、宿泊体験も通して社会のルールを身につけることが目的だ。昨年は、コロナの影響でスキー教室が開催されなかったが、今年は、みんなが2日間スキーの楽しさを味わうことができた。

初めてスキーをするグループから、自由に曲がることのできる中級までのグループに分かれ、ポランテアの方々にスキーの技術を教わった。

初めてのグループは「ハ」の字で滑る練習から始め、リフトに乗ることができるようになった。中級グループは、自由に曲がることのできる中級までのグループに分かれ、ポランテアの方々にスキーの技術を教わった。

初めてスキーをするグループから、自由に曲がることのできる中級までのグループに分かれ、ポランテアの方々にスキーの技術を教わった。

初めてスキーをするグループから、自由に曲がることのできる中級までのグループに分かれ、ポランテアの方々にスキーの技術を教わった。

伝統の技、受け継いで

皿回しクラブが披露

散岐小には、「皿回し 懸命皿回しの技の習得に練習してきた皿回しの技を披露している。今年、取り組んでいる皿回しクラブは、花布を回すという伝統的なもので、これからの活動を続けていく。

皿回しクラブは、花布を回すという伝統的なもので、これからの活動を続けていく。

皿回しクラブは、花布を回すという伝統的なもので、これからの活動を続けていく。

皿回しクラブは、花布を回すという伝統的なもので、これからの活動を続けていく。



学習発表会で成果を披露するメンバー

みんなで協力! ウォークラリー

散岐小では、3年前から「散岐っ子ウォークラリー」が行われている。子どもたちがミッションをクリアしながら、散岐地区を歩いて周りゴールを目指すゲームである。

当日は、異学年でチームを組んだ「なかよし班」でゲームを行った。各ポイントで地域の方に散岐にちなんだクイズを出していただいた。散岐の伝統である皿回しミッションや、歴史が学べるクイズもあった。また、水根地区にある宇土分校跡では、各チームが仲良くポーズを決めて記念写真を撮った。

悪口を言わないこと。



萬福寺にお参りし、甘茶を頂く

水根地区にある萬福寺では、甘茶を飲ませてもらった。子どもたちが大事に暮らすための大事なことを住職さんに話していただいた。「命を大事にすること。物を盗まないこと。うそをつかないこと。悪口を言わないこと。」

これらことを心にため、生活すると豊かですてきな日々が送れるという話を聞いた。子どもたちは、地域の方と交流を深め、大切なことをたくさん学んだ一日であった。

(5年・中村彪彦、下田陽)

愛され続ける大義寺山

散岐小の西側には、自然豊かで子どもたちに親しまれている「大義寺山」がある。名前の由来は、大義寺というお寺の近くあるため、この名前がついたそう。

大義寺山は、休憩時間になると、たくさん子どもたちが山に登って遊んでいる。鬼ごっこや落ち葉遊び、ドングリ拾いなどを楽しんでいる。そんな大義寺山は、もっと子どもたちが遊べるようにと、地域の方々が遊具や木製の階段の整備をしてくださっている。子どもたちもそんな大義寺山が大好きである。

また、山にはたくさんの動植物が生息している。春にはいろいろな種類の花が見られ、夏には虫たちの元気な鳴き声が聞こえる。秋には紅葉が楽しめる。冬には降り積もる雪景色を見ることが出来る。四季折々のいろいろな変化を見せる山となっている。

この学校のシンボルであり、ずっと愛され続けてきた大義寺山。これからもきれいに保ち、大事にしていきたい。

(5年・村上一磨、西田柁太、倉持暉)



みんなの憩いの場大義寺山

150周年の歴史と想い

2022年11月19日は、散岐小の学習発表会の日であった。今年度のスローガン「150自分を信じて 笑顔で伝えよう 散岐の想い」には、創立150周年の歴史を感じ、笑顔で自分たちの思いを、見ている方に伝えようというメッセージが込められている。

発表会は、皿回しクラブの華麗な技の披露から始まり、各学年の思いがこもった発表が行われた。

1年生は「くじらぐも」を歌と演技で楽しく発表した。2年生は、昔話「世界一の話」を動物になりきって元気よく発表。3年生は英語劇「つながろう世界のみんな」を披露し、4年生は福祉について学んだことを笑顔で伝えた。



5年生は、米づくりを体験して学んだことを劇と歌で表現し、6年生は、修学旅行でのエピソードや自分たちの成長を一生懸命に伝えた。

自分たちの思い詰まったすてきな一日となった。

(5年・北尾若菜、田中芽衣、前田琳永)

米づくりイーネ!



汗を流してみんなで稲刈り。たくさん実ったね

12月には、脱穀後の藁を使って地域の方と一緒にしめ縄づくりを行った。

5年生は、一年間を通して米づくりに取り組み、米づくりの大変さを感じ、お米一粒一粒の大切さを体験を通して学んだ。

(5年・竹内啓太、山田一稀、佐々木恵大)

